

〔歷世女裝考〕鵠の鏡鶴の鏡

百年ばかりこなたの鏡に、南天燭を鑄付けたるもの多し、是を橘庵漫筆に、易の卦象にあて、辨じたるは、鑿説に似たり、さやうのむつかしき事にはあらず、南天を難轉と名詮して、難を轉ずる祝事なり、故に、嫁入の轎にも、なんてむの葉をいる、なり、

〔東大寺獻物帳〕御鏡貳拾面略○中

圓鏡一面、重大六斤一兩徑一尺二寸五分、染背金銀平、脱緋繩帶染木匣緋綾覲盛、

八角鏡一面、重大五斤一兩徑一尺一寸、平螺鈿背緋、純帶染皮箱緋綾覲盛、

〔觀世音寺資財帳〕嘉保□年寶藏實錄日記

第二櫃 鏡參拾參面略○中 九寸一面、裏螺鈿、入黒漆筥、

〔新編武藏風土記稿十九〕妙義社上駒社寶

鏡一面圓鏡、徑三寸六分、和歌ヲ刻ス、増鏡掛テゾ頼ム神風ノ吹起スベキ名ヲモ家ヲモ、三樂齋ト彫ル、サセル古物トモミエズ、

〔信長記十三〕鏡屋天下一號之事

鏡屋宗白ト云シ者ヲ村井長門守召連、手鏡ヲ以御禮申サセケルニ、信長公即取上見給フテ、イト明白也、願ハ心ノ善惡ヲ見シ鏡モガナ、世中ノ癖トシテ、諸侯大夫寵臣等ガ、云爲ヲバ、善モ惡キモ、人皆イミジキヤウニ云ナシケレバ、却テ心ヲ闇ス事ハ、日月ニ彌増ケレドモ、行ノ惡キヲ諫ル事ハナシ、サリヌベカラシ、諫臣ヲ求得ズンバ、政道ノ實理ハ聞ズナン成ヌベシト、思召入給フゾ有難キ、角テ鏡ノ裏ヲ御覽ズレバ、天下一ト銘セシ也、公御氣色變リ、去春何レノ鏡屋ヤラン、捧ゲシニモ、裏ニ天下一ト銘ジツル、天下一ハ唯一人有テコソ、一號ニテ有ベケレ、二人有事ハ猥ナルニ非乎、是偏ニ、長門守ガ不明ヨリ起レリ、汝ガ不明ハ予ガ不明也トテ、事ノ外ニゾ痛ミ、思召給ヒケル、